

漁川ダムにおける「えにわ湖力又ー&ダム
見学」の取り組みについて
—令和6・7年度における地域協働型水辺学習の実践報告—

札幌開発建設部 千歳川河川事務所 漁川ダム管理支所

○前 隼太
北清 竜也
大沼 隆一

令和6年3月に閣議決定された第9期北海道総合開発計画では、官民の垣根を越えた「共創」により、他で代替できない北海道の価値（食、観光、脱炭素など）を最大化し、2024年度からおおむね10年を期間として、地域の強みを活かした施策を推進することが示された。本報告は、第9期北海道総合開発計画に掲げる「共創」の趣旨に基づき、漁川ダムをフィールドとした「えにわ湖カヌー&ダム見学」の取組について、令和6・7年度の実施内容を整理し、地域協働による水辺学習の推進に向けた課題と今後の方向性を示すものである。

キーワード：漁川ダム、えにわ湖、地域協働、共創、インフラツーリズム

1. はじめに

令和6年3月に閣議決定された第9期北海道総合開発計画の方針を踏まえ、官民共創により地域資源の価値を高める取組の推進が求められている（計画期間：2024年度からおおむね10年間）。本稿は、漁川ダムを対象フィールドとして、令和6・7年度に実施した「えにわ湖カヌー&ダム見学」の取組について、水辺学習およびインフラツーリズムの観点から整理し、地域協働による推進方を検討するものである。本取組は、一般社団法人かのあ等の民間主体と、漁川ダム管理支所・一般財団法人石狩川振興財団、情報発信「かわたびほっかいどう」等が連携する官民協働により実施され、湖上のカヌー体験とダム施設見学（監査廊を含む）を組み合わせた教育的プログラムとして運用された。令和6年度・令和7年度ともに親子を中心とする約15名規模で実施し、体験学習と社会基盤理解の双方の観点で一定の成果が確認されている。本稿では、両年度の実施内容を整理し、運営・安全・教育・広報の課題を抽出のうえ、地域協働による持続運用の方向性を示す。

2. 取り組み・手法の概要

(1) 「えにわ湖カヌー&ダム見学」の対象エリア・集合場所

対象は、恵庭市盤尻に位置する漁川ダム（えにわ湖）である(図-1)。集合場所は漁川ダム管理支所前とし、湖面での体験活動とダム施設見学を組み合わせた水辺学習プログラムを実施した。

(2) 实施体制

本取組は、一般社団法人かのあが策定した企画書に基



図-1 漁川ダム位置図

づき、プログラム構成・安全管理・緊急対応手順を明確化したうえで実施された。企画書では、安全対策・装備・体制・緊急対応を詳細に定め、体験の安全性と教育効果を両立させている。主催は一般社団法人かのあ、協力は漁川ダム管理支所および一般財団法人石狩川振興財団であり、情報発信は『かわたびほっかいどう』との連携により行われている。

(3) 実施日・時間・参加者

令和7年（2025年）7月13日に実施し、9:00～14:30の半日プログラムとした。参加者は恵庭市在住の親子を中心とした一般参加で、概ね15名の規模である。参加費は無料とした。

(4) プログラム構成

当日のプログラムは、図-2のとおりである。プログラムは、水辺活動による体験学習と、ダムインフラツ

リズム的要素を併せ持つ構成とし、地域の水資源・防災・環境の理解を深めることを意図している。

(5) 安全管理の基本方針

体験活動に際しては、ライフジャケットの着用(写真-1)必須とし、事前の安全説明(装着方法・行動ルール等)を実施した。湖面活動中は、ガイドによる監視体制を敷き、参加者の体調および行動を適宜確認した。夏季の高温環境に鑑み、適切な水分補給・休憩を促すなど、熱中症予防にも配慮した(写真-2)。

3. 結果・現状

(1) 参加者数と実施状況

「えにわ湖カヌー&ダム見学」は、令和6年度および令和7年度の両年度とも1回ずつ実施され、いずれも約15名の参加が得られた(図-3)。参加者の多くは恵庭市内の親子であり、地域に開かれた自然体験型学習の場として一定の需要が確認できた。プログラムは半日形式で構成され、湖上活動とダム施設見学を組み合わせた構成により、参加者は多面的に水辺環境を学ぶ機会を得ている

(2) 体験学習における成果

湖上でのカヌー体験では、水辺の生態系や湖面から見える地形的特徴に触れながら、自然環境への理解を深める様子が見られた。特に、支川イチャンコッペ川付近での生物観察や上陸体験(写真-3)は、子どもたちに人気が高く、公開レポートにおいても「魚に出会えて大喜び」「水が気持ちいい」といった感想が紹介されている。

ダム見学においては、ダム管理支所職員による役割説明(洪水調節、水道水供給、環境保全等)に加え、普段は立ち入ることができない監査廊の見学(写真-4)が実施された。これにより、参加者からは「地域の水がめとしての役割を実感できた」「自然の中で楽しみながらダムについて学べた」等の所見が得られており、体験と学習の双方の観点で高い教育効果が確認された。

(3) 安全管理体制の運用状況

湖上活動においては、主催である一般社団法人かのあから提出された企画書で定められたライフジャケットの着用、事前説明、ガイドの監視体制が適切に運用され、安全確保に支障は生じなかった。加えて、夏季の高温環境を考慮し、定期的な水分補給や休憩の取得を促すなど、熱中症対策も講じられていた。これらの取り組みにより、令和6・7年度とも重大な事故は発生していないことが確認されている。

(4) 2カ年度継続による効果の蓄積

令和6・7年度の両年度での実施を通じ、プログラム運営に関する以下の知見が蓄積されつつある。

- ・参加者層は「親子」を中心に一定しており、地域の水辺学習ニーズが明確に存在する
- ・カヌー体験とダム見学を組み合わせた構成により、自然体験と社会基盤理解を同時に満たす効果がある
- ・官民協働体制(かのあ、ダム管理支所、かわたび等)

9:00	受付・オリエンテーション(担当:かのあ)
	当日の流れ、注意事項の説明
9:30	カヌー体験(担当:かのあ)
	湖上レクチャー後、カヌーにて湖面探索 生物観察等を実施(担当:かのあ)
12:00	昼食(担当:かのあ)
	上陸後、着替え・休憩・昼食
13:30	ダム見学(担当:漁川ダム管理支所)
	ダムの役割・仕組み等の解説 通常非公開エリア(監査廊)を含む施設見学
14:30	解散

図-2 当日のプログラム



写真-1 ライフジャケット着用の徹底



写真-2 熱中症予防(日陰への積極的な移動)

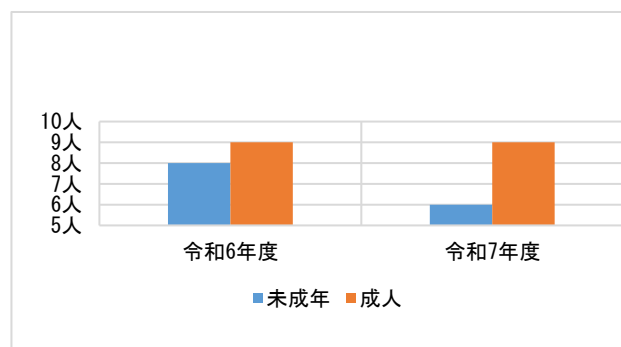


図-3 令和6年度および令和7年度の参加者



写真-3 上陸体験を楽しむ子どもたちの様子



写真-4 ダム監査路内で説明を受ける参加者の様子が、教育効果と安全性の両立に寄与している

これらは、第9期北海道総合開発計画が掲げる「共創」に基づく学習機会創出の趣旨とも整合しており、地域に根ざした水辺学習として一定の成果が見られた。

4. 課題と考察

(1) 熱中症等の環境条件に関する課題

実施時期が夏季であることから、活動中の高温環境が参加者の安全確保上の主要な課題となる。令和7年7月は、北海道地方において統計開始以来7月として歴代1位の高温が記録されるなど、記録的な猛暑となった。札幌管区気象台は「北海道地方の7月の記録的な高温と今後の見通し」を公表し、平年差が日本海側で+4.4℃、太平洋側で+4.8℃等、全域で極めて高い水準に達したことを示している。加えて、熱中症警戒アラートの発表が相次ぎ、道内では危険な暑さが継続した。札幌でも平年を大きく上回る高温が続き、屋外活動における熱ストレスは例年より高く、湖面では水面からの照り返しや湿度の影響により体感温度が上昇しやすい状況にあった。このため、屋外活動における熱ストレスは例年より高く、湖面では水面からの照り返しや湿度の影響により体感温度が上昇しやすい状況にあった。本取組では、水分補給・休憩の取得・ライフジャケットの着用・事前説明等の基本的対策を講じ、大きな事故なく実施したものの、熱中症警戒アラートの頻発を踏まえると、今後は時間帯の調整（午前中心・ピーク時間帯の回避）、プログラムの短

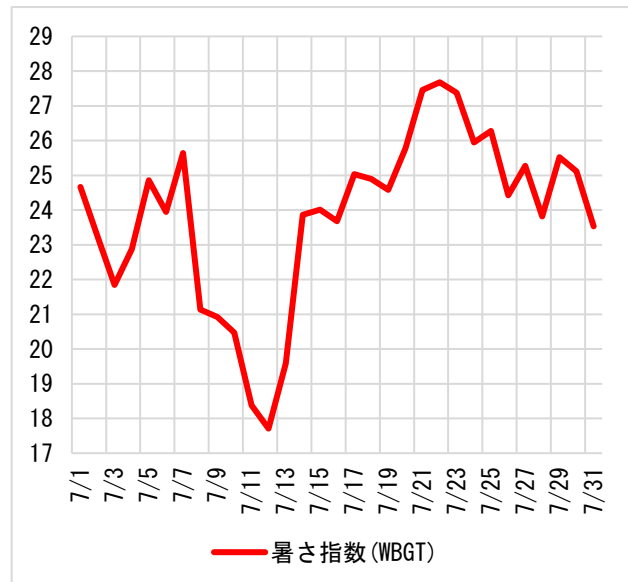


図-4 令和7年7月における恵庭島松の暑さ指数

縮・入替（屋外→屋内説明比率の引上げ）、恵庭島松WBGT(図-4)のリアルタイム監視と運営基準（中止・短縮の閾値）等、運用面の改善を進める必要がある。

(2) 湖上活動における安全確保と運用体制の課題

湖上でのカヌー活動は、落水・転覆・衝突等のリスクを伴うため、安全性の確保が不可欠である。企画書では、ガイドリーダー1名およびカヌーガイド2名の配置、ライフジャケット着用の徹底、事前説明の実施等の体制が整備されていた(写真-5)。一方で、参加者の大半が一般市民（特に親子層）であることから、技量差の大きい参加者への個別対応や、湖面状況の変化に即応する柔軟な指導体制が求められる。今後は、安全管理計画の精緻化や、危険箇所の共有・周知を強化することで、体験活動の安全性をさらに高める必要がある。

(3) ダム見学における教育内容の深化と評価の課題

ダム見学では、普段立ち入ることのできない監査廊を含む施設見学が実施され、参加者からは「地域の水がめとしての役割が理解できた」といった肯定的な所感が得られている。しかし、教育効果の評価手法は現状十分に体系化されておらず、学習到達度の測定やフィードバックを行う仕組みが整備されていない。今後は、簡易アンケートの実施や学習目標の設定、学習成果を可視化する指標の検討等により、教育的価値をより明確にすることが課題である。

(4) 官民協働体制の持続性と役割分担の課題

本取組は、主催者（一般社団法人かのあ）、協力機関（漁川ダム管理支所・石狩川振興財団）および情報発信（かわたびほっかいどう）が連携した官民協働によって成立している(図-5)。これは第9期北海道総合開発計画が掲げる「共創」の理念に沿った取り組みであり、地域の魅力を高める基盤となっている。一方で、多年度継続を前提とした体制を維持するためには、各機関の役割分担の明確化や、広報手段の強化、年間スケジュール調整な



写真5 カヌーの操作方法のレクチャー

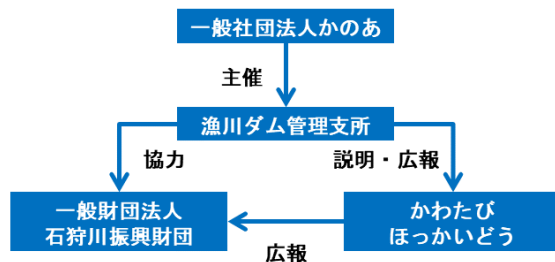


図5 官民協働体制の持続性と役割分担

どの運営面の課題が存在する。また、参加者募集の方法や、他主体（学校等）との連携拡大についても、今後の方向性を検討する必要があるが、これらは現時点では支所内での議論段階にあり、具体的な展開は今後の内部検討を経て判断する予定である。

(5) 総合考察：2カ年度継続による価値と今後の可能性

令和6・7年度の2年間の実施から、カヌー体験とダム見学を組み合わせた本プログラムは、地域の水辺環境学習として一定の定着を見せている。参加者からは自然体験・防災学習・地域理解の観点で高い評価が得られており、地域に根ざした体験学習のモデルとしての可能性が示されている。また、官民協働による水辺学習は、地域住民の防災意識向上や自然環境への理解促進に寄与するだけでなく、地域資源を活用した観光・教育分野の連携強化にもつながると考えられる。総じて、多年度継続により蓄積された知見は、今後のプログラム拡充および地域における持続的な水辺活用の推進に向けて有益な基盤となる。

5. 今後の展望

(1) 継続実施とプログラム拡充

令和6・7年度の実施を踏まえ、年度計画化（開催時期の固定化、募集開始時期の明確化）により安定的な運用を図る。また、プログラムの拡充として、学習効果の可視化に資する簡易ワークシートや事前学習（オンライン動画・資料配布）の導入等を検討し、地域の学校等との連携により、学校連携枠の設定や教科横断的学習（防災・理科・社会）への展開を目指す。

(2) 安全管理体制の強化

WBGT（暑さ指数）や気象情報に基づく運営基準（中止・短縮の閾値）を明文化し、時間帯の最適化（午前中心／高温ピークの回避）を図る。熱中症警戒アラート等の発表状況を当日運用に反映するため、現地責任者による当日朝の判断プロトコルを整備する。また、ガイド体制の増員（参加者比率の見直し）や、危険箇所のマップ化・事前周知を行う。

(3) 学習効果評価の導入

教育効果の把握に向け、到達目標（例：ダムの三つの役割の理解／水辺安全行動の定着）を明記し、事前・事後アンケートによる知識・関心・行動意識の変化を評価する。アンケート結果は図表（グラフ等）で整理し、次年度計画へ反映する。

(4) 官民協働の深化と広報連携

主催・協力機関の役割分担（運営／安全／教育説明／広報）を再確認し、年間スケジュールを共有する。情報発信は、かわたびほっかいどう等の既存チャネルと連動し、募集案内・成果報告の一体的な発信を強化する。地域メディア・観光協会等とも連携し、参加者層の定着（親子→学校・地域団体）を図る。

(5) 「共創」に基づく方向性

第9期北海道総合開発計画が示す官民連携による共創の方針に沿い、地域資源（えにわ湖・漁川ダム）を学びの場として活用する体制を持続的に構築する。これにより、防災意識の向上、自然環境への理解促進、地域への愛着醸成等の効果を広げ、インフラツーリズムとしての価値を高める。

参考文献

- 1) 札幌管区气象台「北海道地方の7月の記録的な高温と今後の見通しについて」
https://www.data.jma.go.jp/sapporo/oshirase/2025/sp_press250801_kouon.pdf
- 2) 気象庁「2025年7月の天候」
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/monthly/202507/202507m.html>
- 3) 気象庁「過去の気象データ検索：恵庭島松(2025年7月 特別値)」
<https://ds.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/>
- 4) 札幌市「熱中症の注意喚起等」
<https://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/hyperthermia/hyperthermia.html>
- 5) 一般社団法人かのあ「えにわ湖カヌー&ダム見学1DAY」
<https://shikotsu.net/archives/599.html>
- 6) かわたびほっかいどう「えにわ湖カヌー&ダム見学2025」
<https://kawatabi-hokkaido.com/%3Fevent%3D33790/>
- 7) かわたびほっかいどう「北海道カメラ女子の会、『えにわ湖』カヌー&ダム見学1DAY』に参加！」
<https://kawatabi-hokkaido.com/2024/12/24/30576/>
- 8) 北海道カメラ女子の会「えにわ湖ってどんな場所？カヌー&ダム見学を取材しました！魅力発信<第十七弾>」
<https://hokkaido-camera.com/2025/08/28/10002>